

新潟市長

中原 八一様

要 望 書

令和4年1月14日

大澤孝司の兄

大澤昭一

「大澤孝司さん」の拉致認定を求めるお願い

大澤孝司の兄 大澤昭一

北朝鮮による拉致問題解決に向け、常日頃鋭意努力されていることに対して心から感謝申し上げます。

私の弟、孝司が勤務地の佐渡で行方不明になってから既に47年が経ちました。当時は北朝鮮による拉致などという概念は無く、県警や事務所、地域の方々の大捜索にも拘わらず、実態は不明のままでした。地元の関係者から、孝司が失踪する10日ほど前に知人に外国での農地整備の協力を求められて困っていたという証言もありましたが、その件について、私も警察もあまり気にしていなかったと思います。今となっては残念です、

そして、事務所の多くの同僚の皆さんの証言では、前日まで普段通りに行動しており、突然の失踪は信じられないとの事でした。

その後、平成14年に曾我さんや蓮池さんら5人の拉致被害者が帰国し、拉致の実態がだんだん明らかとなり、孝司を含めて様々な方々の救出活動が続けられています。

「大澤孝司と再会を果たす会」でも、平成19年に孝司の国の拉致被害者認定を求めて119,655名の署名簿を国に届けましたが、残念ながらダメでした。後日、この件で私が直接中山恭子氏（署名簿を手渡した当時の首相補佐官）に「政府の中で、拉致認定者を増やすことを善しとしない勢力があるのか」尋ねると、「そうです」と返事がありました。私も、それ以上は聞きませんでした。大変悔しかったです。

先日、救う会の前会長飯塚さんをご病気のためお亡くなりになりました。私も85歳と高齢となり、今のところは皆さんとともに活動を続けておりますが、拉致問題解決の展望が見通せないまま不安な日々を過ごしています。

このような状況の中、本年は県内の市町村長の皆様方から「北朝鮮による拉致問題に関する新潟県市町村長の会」を立ち上げて頂き、大変感謝しております。

最後に、皆様方には重ね重ねのお願いですが、私は孝司の拉致は状況証拠、県警の告発状の受理、松原元大臣の発言などからも100パーセント間違いないと確信しております。

どうか、皆様方のそれぞれの機会やお立場から、国に対して孝司の認定に向けて強力な働きかけをお願いする次第です。宜しくお願い致します。